

いけんひろば  
～こども白書について～  
～「令和6年版こども白書」(やさしい版)を  
つくる上で大切だと思ふこと～

フィードバック資料

2023/2024年度『こども若者★わかものいけんぷらす』事業

## 1. かいさい がいよう 開催概要

- ・いけんひろば「こども白書について」
- ・いけんひろば「『れいわ ぼん令和6年度版こども白書』（やさしい版）をつくる上で大切だと思うこと」

## 2. 意見の活用について

- ① 令和6年版こども白書への意見の活用について
- ② 令和6年版こども白書やさしい版への意見の活用について

## 3. ちょう たんとう しょうちょう こども家庭庁（テーマ担当省庁）より



# 1. 開催概要

テーマ	「こども白書」について	「令和6年版こども白書」(やさしい版)をつくる上で大切 だと思うこと
担当省庁	こども家庭庁	
参加対象者	ぷらすメンバーのうち、高校生年代～20代	ぷらすメンバーのうち、小学生～高校生年代(令和6年 度に18歳になる方まで)
テーマ説明	「こども白書」に、どのような「トピックス」を掲載すれば、皆 さんが読みたいと思えるものになるかを考えるため、皆さんの意 見を聞かせてください。	小学生や中学生の方にも読んでもらえるような内容やデザ イン、ページ数などを工夫した「やさしい版こども白書」を作る ことを予定しています。この「やさしい版こども白書」を作成す るために、みなさんからアイデアをいただきたいです。
開催場所・ 方法	WEBアンケート	オンライン：Webex 対面：PwCコンサルティング合同会社(東京都)
開催日時	令和6年2月9日(金)～2月25日(日)	オンライン： 令和6年7月19日(金)19:00～21:00 対面： 令和6年7月20日(土)13:00～15:00
参加者数	158件	オンライン：小学生～高校生年代8名 対面：小学生～高校生年代14名

## 2. 意見の活用について



今回のいけんひろばでいただいた意見は、

- ① <sup>れいわ</sup>令和6年版<sup>ばん</sup>こども白書 ② <sup>れいわ</sup>令和6年版<sup>ばん</sup>こども白書やさしい版  
に活用いたしました。



### ①「令和6年版こども白書」について

「こども白書」は、その年度に政府が<sup>せいふ</sup>こども・<sup>わかもの</sup>若者や子育てをしている方のために、どのような取組を行ったのかなどを<sup>きさい</sup>記載して、国会へ<sup>ていしゅつ</sup>提出するものです。

2024年6月21日に、初めての「こども白書」（令和6年版こども白書）を<sup>かくぎ</sup>閣議決定し、国会に提出しました。

「令和6年版こども白書」はこちらからご覧いただけます▶▶ [こども白書 | こども家庭庁HP](#)

### ②「令和6年版こども白書やさしい版」について

「こどもまんなか社会」の主役である、こども・若者のみなさん（特に、小・中学生の方）に、「こども白書」の内容を知っていただくため、わかりやすくやさしい日本語や<sup>さくせい</sup>見せ方で作成したものです。

「令和6年版こども白書やさしい版」はこちらからご覧いただけます▶▶ [こども白書やさしい版 | こども家庭庁HP](#)

①「こども白書」へのみなさんの意見の反映について

はんえい

# ①「注目事例」について

「詳しく説明してほしいと思うこと」「自分や同世代の将来を思い描いたときに大切だと思うもの」  
でいただいたご意見を踏まえ、「令和6年版こども白書」に掲載する「注目事例」のテーマを決定しました！



【注目事例①】<sup>ひんこん かいしょう</sup> 貧困の解消・<sup>れんさ ぼうし</sup> 貧困の連鎖の防止に向けた<sup>しえん</sup> 学習支援

【注目事例②】<sup>かいせい じどう ふくし ほう</sup> 令和4年改正児童福祉法

【注目事例③】<sup>じさつ たいさく</sup> こどもの自殺対策～<sup>きき たいおう</sup> 「長野県子どもの自殺危機対応チーム」の取組～

【注目事例④】<sup>の と じしん ひさい</sup> 能登半島地震で被災した<sup>いばしょ</sup> こどもの居場所づくり

(<sup>ほうじん</sup> NPO法人「<sup>さいこう れんめい</sup> 日本教育再興連盟」、<sup>みりよく</sup> 能登高校 魅力化プロジェクトからの<sup>きこう</sup> 寄稿)

【注目事例⑤】「はじめの100か月の育ちビジョン」

【注目事例⑥】「こどもの居場所づくりに関する<sup>かん ししん</sup> 指針」

【注目事例⑦】<sup>たんまつ</sup> 1人1台端末等を活用したこどもの相談支援

【注目事例⑧】<sup>いじめ ぼうし たいさく</sup> 学校外からのアプローチによるいじめ防止対策

【注目事例⑨】<sup>やんぐ ケアラー 支援</sup> ヤングケアラー支援

【注目事例⑩】<sup>いしき かいかく</sup> こどもまんなかアクション～<sup>いしき かいかく</sup> こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革～

【注目事例⑪】<sup>わかもの</sup> こども・<sup>せいさく はんえい</sup> 若者の意見の政策反映～「こども若者★いけんぷらす」の開始～

【注目事例⑫】<sup>しんがた</sup> 「<sup>かんせんしやう</sup> 新型コロナウイルス感染症流行による<sup>えいきやう</sup> 親子の生活と健康への影響に関する<sup>じつたい ちやうさ</sup> 実態調査」(<sup>せいいく</sup> 国立研究開発法人国立成育医療研究センターからの寄稿)

赤字の事例が、みなさんの  
意見で決定したテーマです



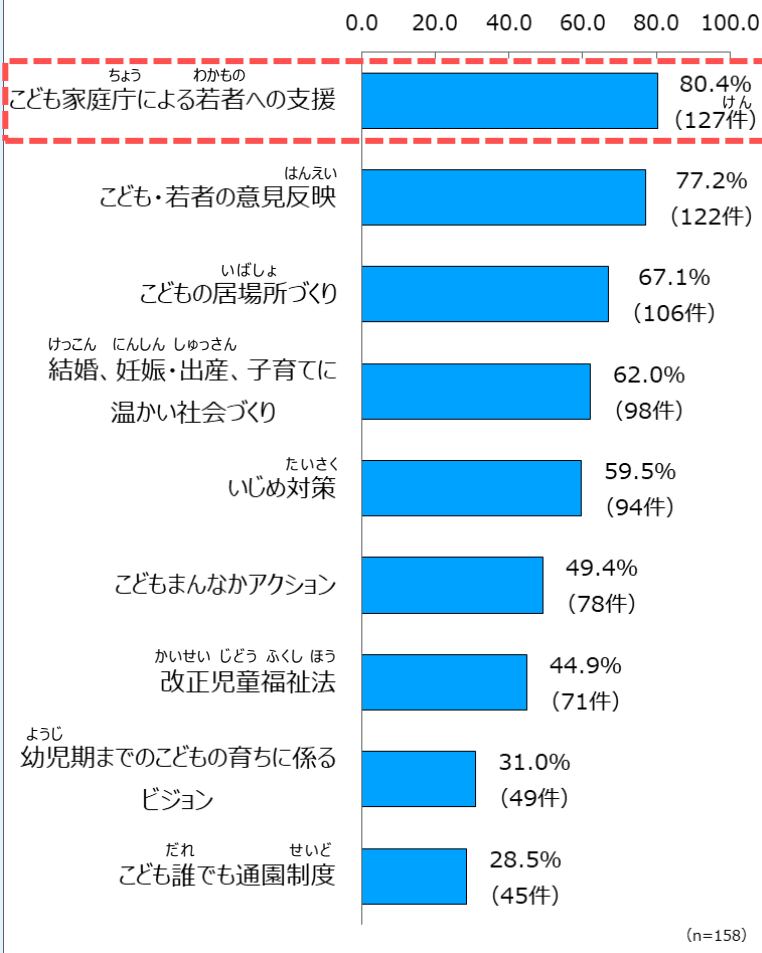
次のページからみなさんの意見を反映した「注目事例」について詳しく説明します！



# ①「注目事例」について～「ヤングケアラー支援」～

## ぷらすメンバーからの意見

### 詳しく説明してほしいと思うこと



## みなさんの意見の活用

こども家庭庁が行うこども・若者への支援のひとつとして、「**ヤングケアラー**」を取り上げました！

### 注目事例⑨ ヤングケアラー支援

#### ヤングケアラーとは

ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話をしているこどもや若者のことである。家族のケアの負担によって、自分の時間や勉強する時間がとれない、友人と遊ぶことができない、ケアについて話すことができず、孤独やストレスを感じることもあるなど、生活に影響が出ることも少なくない。

国において実施した、2020年度の中学2年生・高校2年生を対象とした調査、2021年度の小学6年生・大学3年生を対象とした調査では、世話をしている家族が「いる」と回答したのは小学6年生で6.5%、中学2年生で5.7%、高校2年生で4.1%、大学3年生で6.2%であった。

図表2-2-43 ヤングケアラーとは



#### ヤングケアラーへの支援について

ヤングケアラーへの支援については、2021年に厚生労働省<sup>50)</sup>と文部科学省の合同プロジェクトチーム<sup>51)</sup>において取りまとめた報告書に基づき、地方自治体の実態調査による現状把握や「ヤングケアラーコーディネーター」の配置、ピアサポート等相談体制の推進等に依る体制整備等の補助事業を推進している。

50) 厚生労働省における関連業務については、2023年4月1日より、こども家庭庁に移管された。

51) 「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」

### ポイント

ヤングケアラー支援の先進的な取組について紹介して

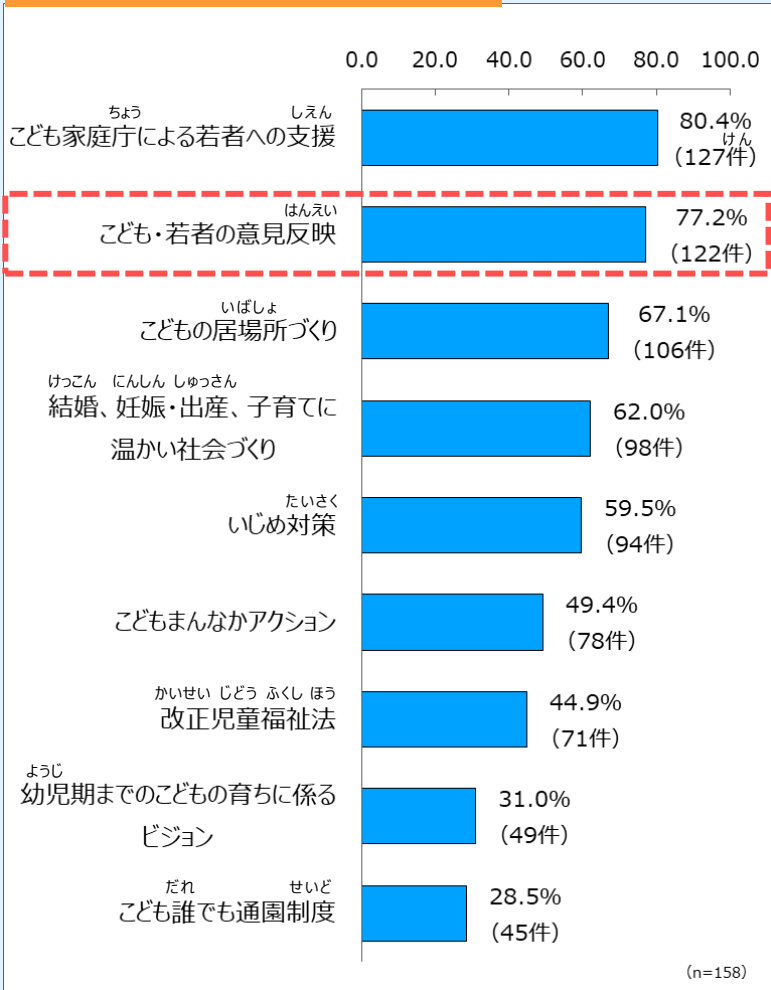
いるほか、ヤングケアラーが18歳を迎えた後の切れ目のない支援を行うことについて記載しています！

※こども期（18歳未満）に加え、進学や就職の選択など、自立に向けた重要な移行期を含む若者期を切れ目なく支えるという観点からおおむね30歳未満を中心としていますが、状況等に応じ、40歳未満の者も対象となり得るとしています。

# ①「注目事例」について～「子ども若者★いけんぷらす」～

## ぷらすメンバーからの意見

### 詳しく説明してほしいと思うこと



## みなさんの意見の活用

子どもや若者が様々なテーマに対し、様々な方法で自分の意見を表明し、社会に参加することができる「子ども若者★いけんぷらす」を取り上げました！

### 注目事例① 子ども・若者の意見の政策反映 ～「子ども若者★いけんぷらす」の開始～

こども家庭庁では、子どもや若者が様々なテーマに対して、様々な方法で自分の意見を表明し、社会に参加することができる取組として「子ども若者★いけんぷらす」を2023年度から実施している。

「子ども若者★いけんぷらす」は、  
・子ども・若者が、政策に対して意見を伝えて、政策を決めるプロセス（過程）に主体的に  
参加する機会・場を得ること  
・政府（国）が、子ども・若者の意見を広く聴いて、制度や政策に反映し、制度や政策をより  
良くすること  
・社会全体にこの取組を広く発信することで、子ども・若者の意見を聴くことの大切さにつ  
いての理解を広げること  
を目的に事業を行っている。

この事業では、小学生～20代の子ども・若者を対象としており、2023年度時点で約4,000人の子ども・若者が、「ぷらすメンバー」として登録している。  
2023年度は、各府省庁から「ぷらすメンバー」の意見を聴きたいと寄せられたテーマ、「ぷらすメンバー」が意見を言いたいテーマの計27テーマに関し「いけんひろば」（「子ども若者★いけんぷらす」において、「ぷらすメンバー」が意見を伝える機会）を実施し、延べ約2,600人（アンケート回答者数を含む）から意見を聴取した。

図表2-4-3 「ぷらすメンバー」募集チラシ



ポイント

「子ども若者★いけんぷらす」の  
目的として、

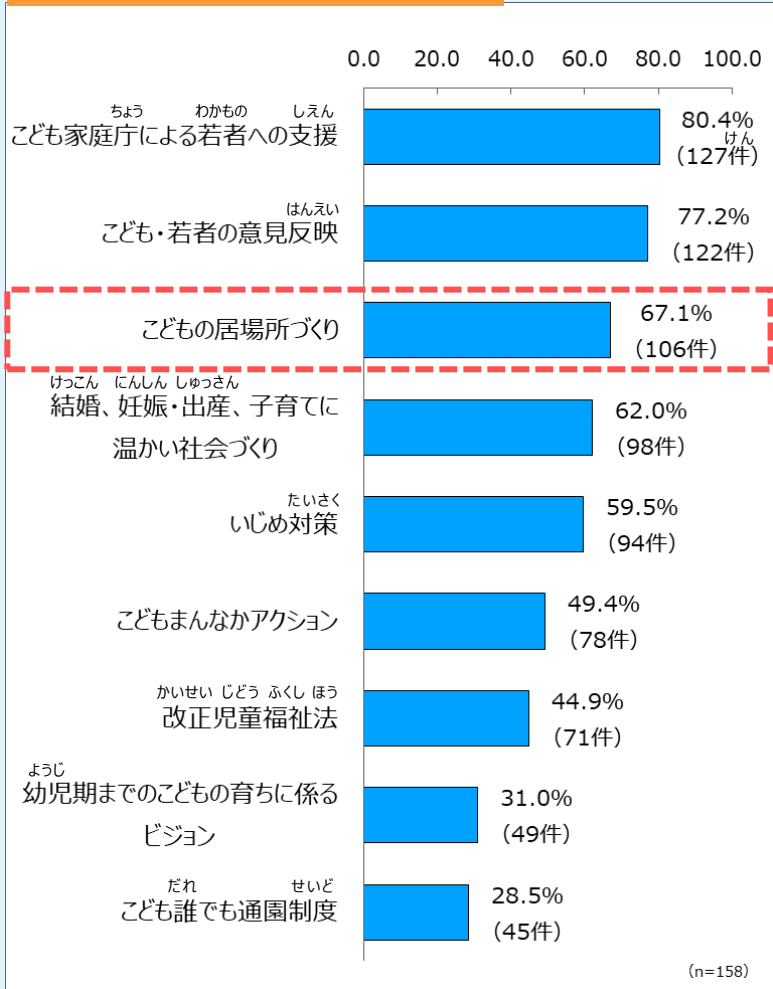
- 子ども・若者が、政策に対して  
意見を伝えて、政策を決める  
プロセス（過程）に主体的に  
参加する機会・場を得ること
- 政府（国）が、子ども・若者  
の意見を広く聴いて、制度や  
政策に反映し、制度や政策を  
より良くすること
- 社会全体にこの取組を広く発  
信することで、子ども・若者の  
意見を聴くことの大切さにつ  
いての理解を広げること…など、  
事業の目的や内容を記載してい  
ます！



# ①「注目事例」について～「子どもの居場所づくりに関する指針」～

## ぷらすメンバーからの意見

### 詳しく説明してほしいと思うこと



## みなさんの意見の活用

### 2023年12月22日に閣議決定された「子どもの居場所づくりに関する指針」を取り上げました！

#### 注目事例⑥ 「子どもの居場所づくりに関する指針」



2023年12月22日に「子どもの居場所づくりに関する指針」（以下この注目事例において「指針」という。）が閣議決定された。指針は、子どもの居場所に関する基本的事項や居場所づくりを進めるに当たっての基本的な視点、推進体制などを記したものである。

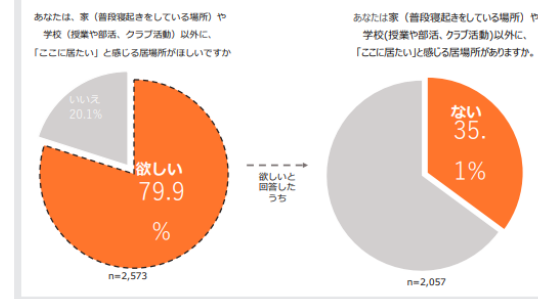
指針を取りまとめるに当たっては、子ども・若者が考える居場所についての声を聴くことを大切に。「子ども若者★いけんぷらす」の枠組みを活用し、指針について議論するこども家庭審議会こどもの居場所部会に子ども・若者が直接参加する機会を設け、自分の居場所はどこか、その居場所に何を求めているのかなど居場所に関する実態やニーズを聴いた。

また、こども家庭庁において子ども・若者約2,500名へのアンケート調査（2023年度）を行った結果、「家や学校以外の居場所が欲しい」と回答したのは約8割で、このうち「家や学校以外の居場所（欲しいけれど）ない」と回答したのは約4割いることが明らかになった。回答者の年齢や性別などに偏りがあるため、解釈には注意が必要だが、家や学校以外の居場所のニーズがあることがうかがえる。

また、居場所があると答えた子ども・若者に具体的にどんな場であるのかについて尋ねると、多くの方が居場所として想像する公園や図書館、NPOが運営する場などから、複合商業施設のフードコートや推し活、オンラインの場など多種多様なものが挙げられた。

このアンケート結果にあるように、居場所と感じる場や対象は人それぞれであって、多くの子どもが利用し、居場所と感じている児童館であっても、人によっては居場所と感じないこともあるなど、居場所とは個人的なものである。つまり、本人にとっての居場所が、必ずしも他人にとっての居場所になるとは限らない。

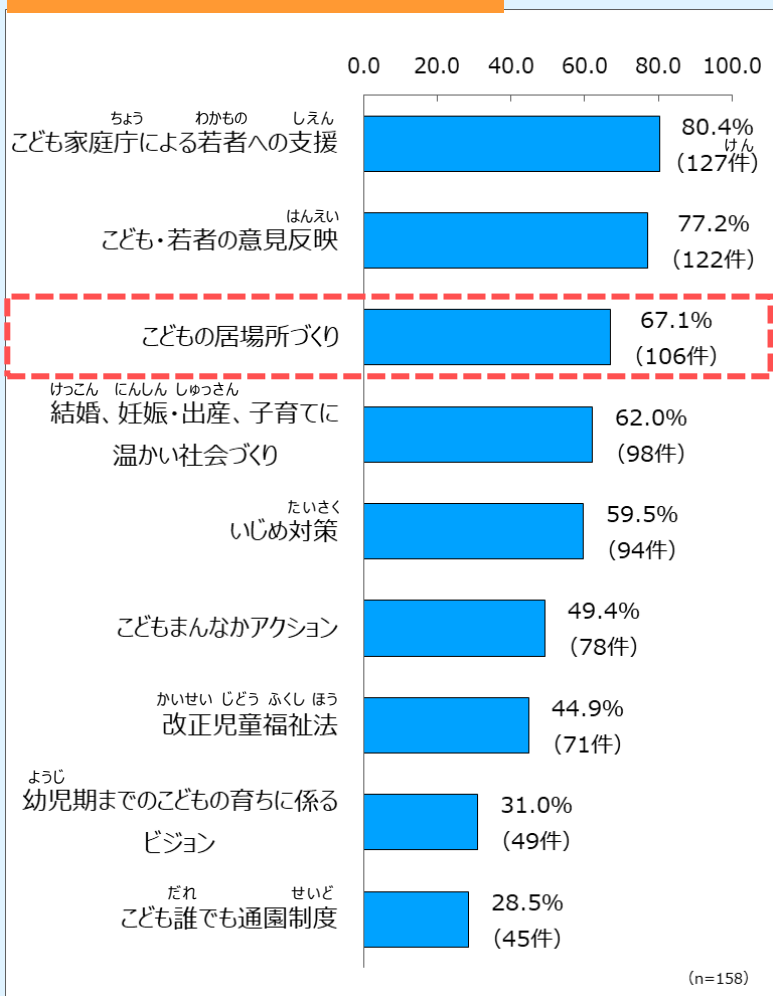
図表 2-2-30 アンケート調査の結果①



「子どもの居場所づくりに関する指針」を取りまとめるに当たっては、子ども・若者が考える居場所についての声を聴くことを大切に、「子ども若者★いけんぷらす」の枠組みを活用して、子ども・若者が、自分の居場所はどこか、その居場所に何を求めているのかなど居場所に関する実態やニーズを聴いたことなどについて記載しています！

ぷらすメンバーからの意見

詳しく説明してほしいと思うこと



みなさんの意見の活用

「居場所づくり」というテーマでもう1つ、「能登半島地震で被災したこどもの居場所づくり（NPO法人「日本教育再興連盟」、能登高校魅力化プロジェクトからの寄稿）」も取り上げました！

注目事例④

能登半島地震で被災したこどもの居場所づくり（NPO法人「日本教育再興連盟」、能登高校魅力化プロジェクトからの寄稿）



今般の能登半島地震の発生を受けて、こども家庭庁からも、現地対策本部に職員を派遣し、日々変化する現地の復旧状況や児童福祉施設等の被害状況、被災したこどもの状況、子育て当事者の支援ニーズ等を踏まえ、こども・若者や子育て当事者の視点に立った必要な支援を届けることができるよう、庁を挙げて連携して取り組んでいる。

そのうち、被災した子どもたちの居場所づくりへの対応については、避難生活が続くことで、こどもや子育て世帯の不安や孤立・孤立が増えることが予想される中、こどもが安全・安心に遊んだり学んだりすることができる居場所を確保することの重要性に鑑み、2024年1月16日に、各都道府県等に対して、被災したこどもの居場所づくりに取り組む民間団体と積極的に連携して、避難所等においてこどもが安全・安心に遊んだり学んだりすることができる居場所を確保するよう要請するとともに、被災したこどもの居場所づくりに取り組む都道府県等及び民間団体への補助の募集を開始した。

以下では、現地において被災したこどもの居場所づくりに取り組んでいる団体（NPO法人「日本教育再興連盟」）及び学校（能登高校魅力化プロジェクト）から、それぞれの活動について寄稿いただいた。

1) 「災害時にこどもの居場所をつくるということ」（NPO法人「日本教育再興連盟」からの寄稿）

災害時に困ること

みなさんは、もし地震が起こったらどういったことに困ると思いますか。またどのような対策をされていますか。例えば、家族分の数日間の保存食や防災パップを用意しているという方や、自分の住んでいる地域にどのような危険があるのかというハザードマップを目にしたことがある人もかもしれません。あくまで私たち（NPO法人「日本教育再興連盟」）の肌感覚ではありますが、阪神淡路大震災、東日本大震災を経て世の中の防災に対する意識は高まり、災害が起こり、救助や支援が来るまでの間に生き延びるための備えをされている人は増えているように思います。

しかし、想像してみてくださいなのですが、数日間生き延びることができれば平常どおり生活することができるでしょうか。私たちは能登半島地震が起こった3日後の1月4日から被災地に入り、活動を続けていますが3月末に至るまで断水が続いていたり、避難生活を余儀なくされたりする人が多くいます。いろいろな支援が入っているのは事実ですが、震災までは当たり前であった様々なことが、急に奪われてしまい、慣れない生活を長期にわたってしなければならなくなるのです。

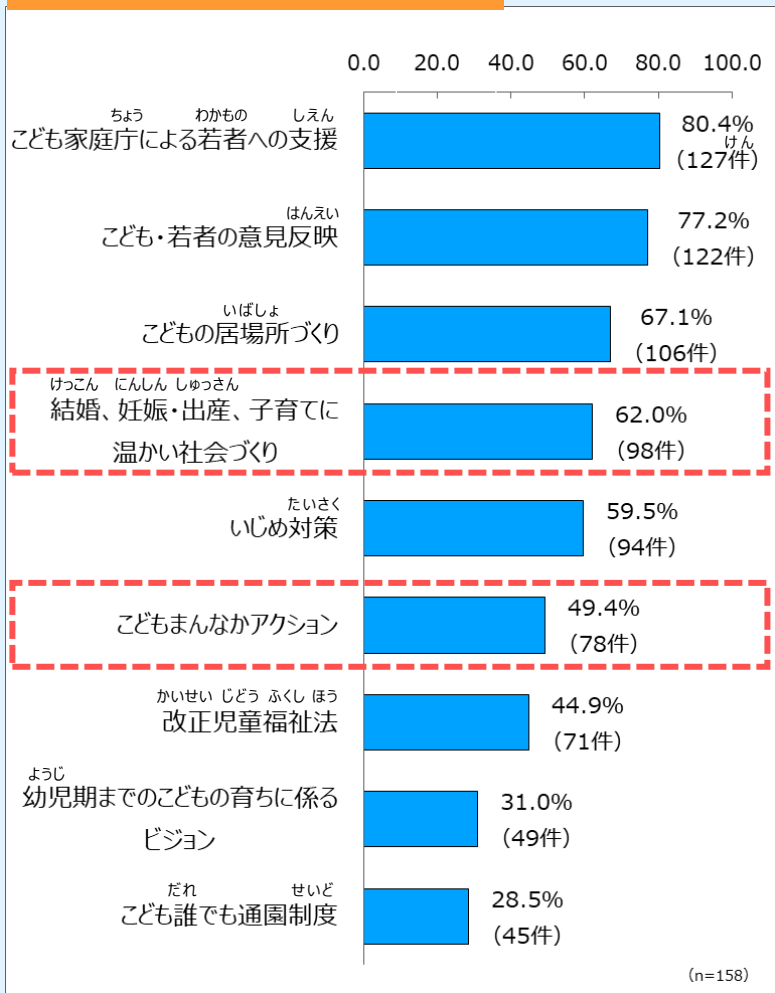
またもう少し踏み込んで、こどもたちはどういったことに困るでしょうか。もちろん怪我をしてしまったり、家に住めなくなってしまうこともあります。ただ同時に、比較的災害直後からこどもたちは元気に遊んだり、中学生にもなる避難所の運営を手伝ったりすることが多くあります。つまり、見た目は元気なこどもたちが多いのです。また、大人の人たちも、こどもたちが元気だと自分たちも元気をもらえることもあります。ただ、少し時間が経つと、例えば、他の地域のこどもは学校に通えているのに、自分たちだけ学校が再開しないということや、中学生では徐々に受験や進路選択の時期が迫ってくることもありま。しかし、そうした時に誰に相談したら良いのでしょうか。特にこどもたちが元気だと自



2024年1月に大きな地震が起きた能登半島のこどもたちの居場所をつくる活動、そして居場所でのこどもたちの様子などについて記載していきます！

ぷらすメンバーからの意見

詳しく説明してほしいと思うこと



みなさんの意見の活用

結婚、妊娠・出産、子育てにやさしい社会づくりとして、「こどもまんなかアクション～こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革」を取り上げました！

注目事例⑩

こどもまんなかアクション～こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革～



こども家庭庁では、こどもや子育て中の方々が気軽に様々な制度やサービスを利用できるよう、地域や企業などの様々な場で、年齢、性別を問わず全ての方が、自然とこどもや子育て中の方々に応援していくような、こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革として「こどもまんなかアクション」を進めている。

2023年4月に「こどもまんなか宣言」の趣旨に賛同する企業・個人・団体・地方公共団体などに「こどもまんなか応援サポーター」となっていただき、「今日からできること」を実践し、取り組んだ内容を自らSNSなどで「＃こどもまんなかやってみた」を付けて発表する「こどもまんなか応援プロジェクト」の取組を始めた。2023年7月に「こどもまんなかアクション」キックオフイベントを開催し、「こどもまんなかアクション」の本格始動を宣言した。キックオフイベントでは、みなさんに使っていただける「こどもまんなかマーク」を投票により決定し、お披露目した。本格始動を宣言して以降、様々な取組を精力的に進めているところである。

図表2-3-7 キックオフイベントの様子



図表2-3-8 こどもまんなかマーク



こどもまんなか応援サポーターの輪は徐々に広がっており、30以上の都道府県、200を超える市区町村、約900の企業・団体・個人と協働中である（2024年3月8日現在）。それぞれが考える、こどもや子育て中の方々に応援する取組やアクションを実施していただいている。全国に「こどもまんなか」が広がっているところである。加えて、サポーターの輪は、点から面へ広がりを見せており、地方公共団体において複数の地域の企業・団体と一緒にサポーターになる取組も広がっている。

こどもまんなか応援サポーターとこども家庭庁の連携事例として、例えば、「ファミマこども食堂」では、店舗近隣にお住まいのこどもたちや保護者を対象に、参加者が一緒に楽しく食事をしたり、コミュニケーションを図ったりすることで、地域交流の活性化を応援する取組を行っている。南九州大学ひばり祭では、市内の中学生・高校生・大学生・社会人が集

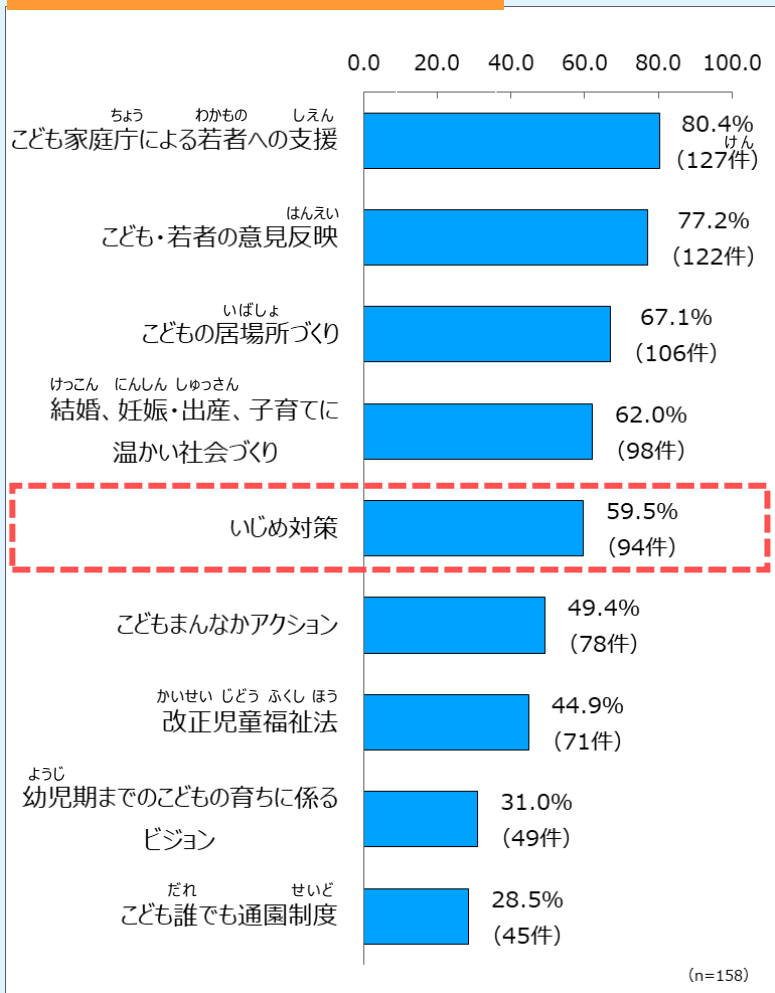
ポイント

こどもや子育て中の方々が  
気軽に様々な制度や  
サービスを利用できるよう、  
地域や企業などの様々な  
場で、年齢、性別を問わず  
全ての方が、自然とこどもや  
子育て中の方々に応援して  
いくような、こども・子育てに  
やさしい社会づくりのための  
意識改革「こどもまんなかア  
クション」の取組などについ  
て記載しています！

# ①「注目事例」について～「学校外からのアプローチによるいじめ防止対策」～

## ぷらすメンバーからの意見

### 詳しく説明してほしいと思うこと



## みなさんの意見の活用

### こども家庭庁におけるいじめ対策として、「学校外からのアプローチによるいじめ防止対策」を取り上げました！

#### 注目事例⑧ 学校外からのアプローチによるいじめ防止対策



いじめは、2022年度の文部科学省の調査結果で、認知件数及び重大事案件数のいずれも過去最多となる、重大事態のうち約4割が事前にいじめとして認知されていなかったなど、大変深刻な状況となっている。

このような中、これまで主として学校、教育委員会等により取り組まれてきたいじめ対策を政府全体の課題として捉え直し、首長部局や警察など学校以外の力も結集し、総力を上げて取り組んでいくことが重要である。

#### 1) 「学校外からのアプローチによるいじめ解消の仕組みづくりに向けた手法の開発・実証」事業

こども家庭庁では、自治体の首長部局において、学校における対応のほかに、いじめの相談から解消まで取り組む手法等の開発・実証に取り組み、学校におけるアプローチ等と相まって、いじめの長期化・重大化防止が実現できるよう、モデル事業を実施している。2023年度は、8自治体でそれぞれの地域の実情に応じた取組が行われた。

図表2-2-35 自治体における取組

#### 令和5年度「学校外からのアプローチによるいじめ解消の仕組みづくりに向けた手法の開発・実証」各自治体の事業計画（主な取組）

団体名	主な取組
北海道 旭川市	令和5年4月に市長部局に創設された「いじめ防止対策推進部」において、相談窓口を設置し、こどもや保護者からの相談に直接対応。
千葉県 松戸市	市長部局に「いじめ相談専用窓口」を開設し、専門職による相談体制を構築。SNSを活用し、休日夜間も相談対応。
三重県 伊勢市	市長部局に「こどもいじめ相談窓口」を開設。被害（加害）者の背景（家庭環境、複合的課題）を踏まえ、関係機関と連携。
大阪府 堺市	臨床心理士等の専門職がこども本人を訪問し、意向や意見を直接聞くとともに、特性等に応じた対応を実施。
大阪府 八尾市	1人1台端末に「いじめ相談・解決室」を導入。福祉部門等の関係部局を始め、教育委員会とも連携。
大阪府 箕面市	市長部局に「いじめ相談・解決室」を新設し、いじめの初期段階から相談・調査を行う「行政的アプローチ」等を実施。
福岡県	知事部局にこどもいじめ専用窓口を開設し、県内の小・中・高等学校等の相談対応。県内市町と連携して対応。
熊本県 熊本市	市長部局に、こどもの権利に関する課題解決を図る組織を設置。地域の居場所となるこども食堂やNPO法人と連携していじめ対策を早期把握。

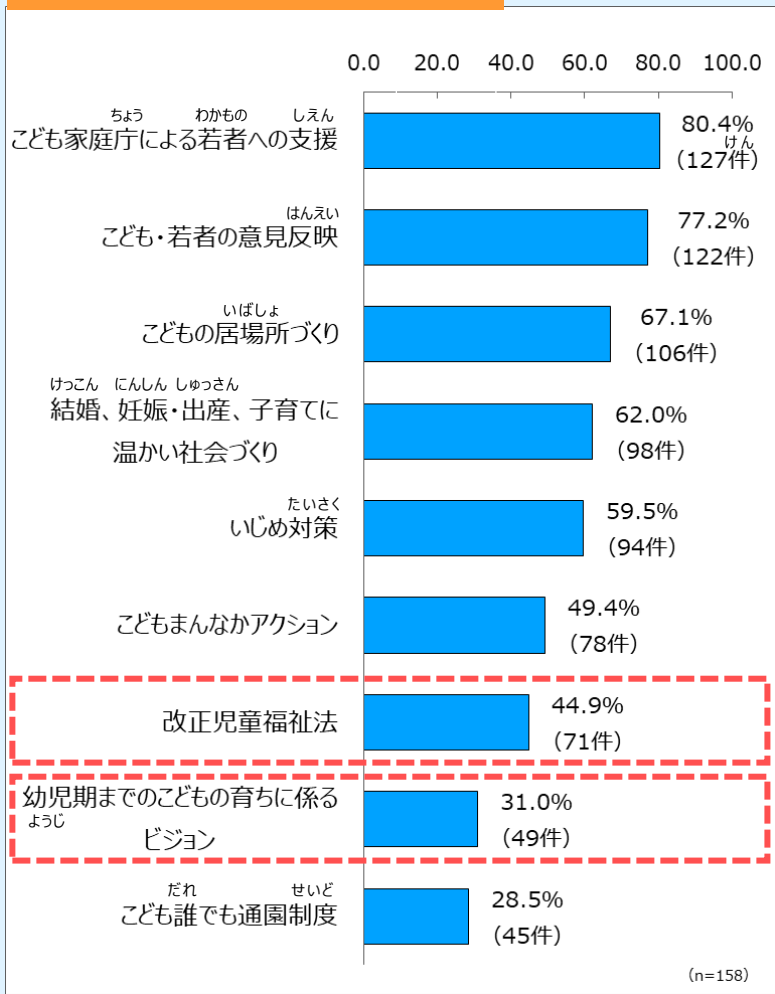


「学校外からのアプローチによるいじめ解消の仕組みづくりに向けた手法の開発・実証」事業について、地方自治体の学校における対応のほかに、いじめの相談から解消まで取り組む手法等の開発・実証の取組例などを記載しています。



ぷらすメンバーからの意見

詳しく説明してほしいと思うこと



みなさんの意見の活用

「令和4年改正児童福祉法」と「はじめての100か月の育ちビジョン」

を取り上げました！

注目事例② 令和4年改正児童福祉法

改正児童福祉法の成立、施行

これまで、児童虐待防止のために様々な対策を講じてきているが、2022年度の児童相談所の児童虐待相談対応件数（速報値）は21万件を超え、過去最多となっている。増加の背景には様々な要因が考えられるが、社会の児童虐待に対する認識の高まりに伴い通報・相談が寄せられやすくなってきた一方で、核家族化の進行や地域関係の希薄化により孤立した状況の中で子育ての困難に向き合わざるを得ない世帯が多くなっていることが考えられる。

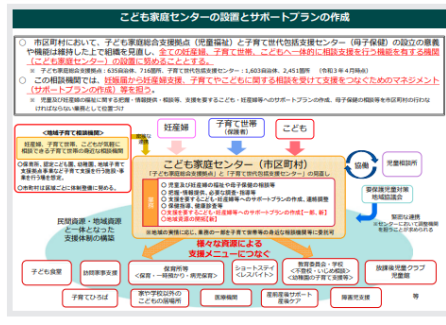
こうした状況を踏まえ、子育て世帯に対する包括的な支援のための体制強化等を図るため、「子ども家庭センター」の設置、支援を要する子どもや妊産婦等への「サポートプラン」の作成、訪問による家事支援等の事業の創設等を内容とする「児童福祉法等の一部を改正する法律」（令和4年法律第66号）が2022年6月8日に成立し、2024年4月1日に施行された。

子ども家庭センターの整備等

これまで、市町村においては、母子保健機能を担う「子育て世代包括支援センター」と、児童福祉機能を担う「子ども家庭総合支援拠点」をそれぞれ整備してきたところであるが、組織が別であるために、連携・協働を行う職員に負担がかかる、情報共有がなされにくいなどといった様々な課題が生じていた。

そこで令和4年改正児童福祉法において、「子育て世代包括支援センター」と「子ども家庭総合支援拠点」の設立の意義や機能を維持した上で組織を見直し、全ての妊産婦、子育て

図表2-1-32 子ども家庭センターの設置とサポートプランの作成



注目事例⑤ 「はじめての100か月の育ちビジョン」

妊娠期から小学校1年生までの「はじめての100か月」は、生涯にわたるウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に幸せな状態）の向上につながる、特に重要な時期である。この時期に、こどもは様々な人やモノ、環境と出会う出会いを繰り返しながら育っていく。だからこそ、こどもが人生の最初の一歩を踏み出せるよう、社会全体で支え、応援していくことが大切である。

図表2-2-14 「はじめての100か月」とは



こどもがまんなかの社会を実現することは、全ての人のウェルビーイングにもつながる。置かれた環境に関わらず、全てのこどもの「はじめての100か月」を全ての人で大切にしていきたいと考え、2023年12月に、「はじめての100か月の育ちビジョン」を新たに策定（閣議決定）した。

「はじめての100か月」に大切にしたい考え方を、以下の5つのビジョンとしてまとめている。今後、国として本ビジョンを社会全体の様々な立場の人へ広めていくとともに、関係省庁や地方公共団体等と連携して、本ビジョンを踏まえた取組を進めていく。

〇ビジョン1：こどもの権利と尊厳を守る

- 全てのこどもに権利がある。こども一人一人の思いや願いを大切にしていく。
- こどもは生まれながらに権利を持っている。全てのこどもの権利を大切にしていく。
- 置かれた環境に関わらず、全ての乳幼児の生命や生活を保障する。
- 乳幼児の思いや願いを受け止め、その主体性を大事にしていく。

図表2-2-15 ビジョン1（イメージ）

子育て家庭を支援する「子ども家庭センター」の設置など、令和4年の児童福祉法改正のポイントを記載しています。

妊娠期から小学校1年生までの「はじめての100か月」に、こども1人1人がすやかに育つことができるよう、みなさんに大切にしてほしい考え方を記載しています。

## ②「こども白書」を手にとってもらうための工夫について～レイアウト～

いただいた意見をもとに、「こども白書」をどうしたら手に取ってもらえるかを考えました！

### ぷらすメンバーからの意見

- UDフォントを使う。

#### ★イラストや図・写真を多く載せる



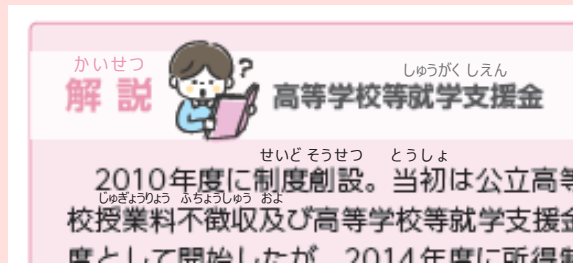
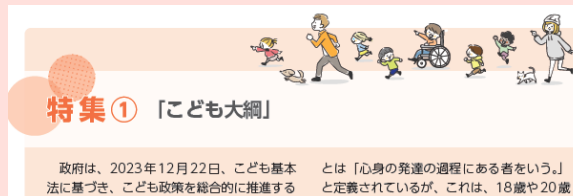
- イラストや写真を増やして見たい気持ちを高めてほしい。
- 可愛いイラストを使う。
- 表紙や文章の部分にイラストを加えて柔らかい印象にした方が良い。
- 目に優しい色合いにする。
- 表紙は目にする人が誰でも柔らかい印象をもてるよう、実際の支援現場の写真やこども若者の描いた絵を添付する。



### みなさんの意見の活用

- **UDフォント**を使いました！

- **イラストや写真を多くし、可愛いキャラクターのイラスト**を使いました！
- また、**目に優しい色合いや、柔らかい印象**になるようにしました。



## ②「こども白書」を手にとってもらうための工夫について～内容～

### ぷらすメンバーからの意見

#### ★**広報や掲載方法を工夫する**

- いろんな公共施設に設置する。
- 各種SNSでトピックなどで小分けにして発信する。
- QRコードから関連サイトにアクセスできる様にしてほしい。

#### ★**表現をやさしくする**

- やさしい日本語で書く。
- 難しい言葉や専門用語を多用するのではなく、誰にでもわかりやすいように言い換える。

#### ★**世代ごとに作成する**

- 年代ごとに（小学生以下向け、中高生向けなど）分けて作る。
- 様々な年代の人に対応できるように、言葉の使い方や漢字、ひらがなの使い分けをしたいいくつかのバージョンを作った方が良い。

### みなさんの意見の活用

- 都道府県の図書館に設置したほか、「こども白書やさしい版」について各種SNSで発信しました！
- QRコードやURLリンクから関連サイトにアクセスできるようにしました。

- やさしい日本語で書いた、**子ども（主に小中学生）向けの「こども白書やさしい版」**を、「こども白書」とは別に作成しました！



#### やさしい日本語に変えた例

「意見を表明する」

つた  
「意見を伝える」



②「令和<sup>れいわ</sup>6年版<sup>ばん</sup>こども白書」(やさしい版)への  
みなさんの意見<sup>はんえい</sup>の反映について



# ①「やさしい版**こども白書**」のコンセプト

## ぷらすメンバーからの意見

### 「やさしい版こども白書」と聞いたイメージ

- 「**こどもがこんなことに困っている**」ということが書いてある。
- **やさしい日本語**が使われているもの。

### どういうときに読んでみるか？

#### 学校で取り扱う



- **学校の先生が「読んでみましょう」というとき。**
- **教科書に載っていて、先生が「今日はこれを音読しましょう」と言ったら、手に取って読む。**
- 中学生は**総合学習の中**で手に取るかもしれない。

#### その他

- **何か活動したいと思っている人は、「こども白書」を読むことで行動を起こすきっかけが生まれそう**だと思った。

## みなさんの意見の活用

- そうですね。**こどもに関する社会の様子**や、そしてそれを**良くするための政策**を知ってもらえるように作りました！
- **できるだけ簡単な表現**を使うようにしました。それでも難しい単語が出てきたときは、辞書やインターネットで調べたり、周りの大人に聞いて、学びながら読んでもらえるとうれしいです。

- 学校で取り扱うというのは大事ですね。調べ学習などでも扱えるように、「**今の社会の様子**」と「**取り組んでいること**」という**構成**を基本としました。
- ありがとうございます！**読んでくれた人の行動や学びのきっかけ**になるよう、いけんひろばでの意見をいろいろと取り入れて作りました。



ぱらすメンバーからの意見

小中学生は好奇心旺盛だと思うので、「なぜ」というところは大切にしたいほうが良いと思う。

1ページあたりの情報が多い。1ページにつき1テーマにした方がよい。

目的や具体的な内容が書かれていない。

難しくならないように具体的な記載を省略した結果、抽象的な記載の残っている。

**こどもまんなかまちづくり**  
こどもや子育て中の人が安心・快適に日常生活を送れるようにするため、こどもの居場所や保護者同士が交流しやすい場所、バリアフリー施設などの環境づくりをする「こどもまんなかまちづくり事業」「こどもまんなか公園づくり支援事業」をつくりました。

**<このほかにやっていること>**  
▶河川管理者、市町村、企業などが協力して「かまちづくり」(河川に近づきやすい環境整備など)  
▶公的賃貸住宅と子育て支援施設などの一体的整備への支援

**こども・若者が活躍できる機会づくり**  
**青年国際交流事業**  
次世代グローバルリーダーを育成するため、航空機や船での多国籍交流を行う事業を行っています。2023年度は、新型コロナウイルス感染症流行が落ち着き、4年ぶりに韓国や東南アジアなど対面での交流を再開しました。

**アントレプレナーシップ教育(起業家教育)のすすめ**  
こども・若者が**社会課題**を見つけ、課題解決に向かってチャレンジしたり、**解決策**を考えたりすることができる**知識・能力・態度**を身に付けられるよう、大学生を対象とした全国プログラムの開催、小中学生や高校生を対象としたプログラムの開発などを行っています。

**こども・若者の可能性を広げていくためのジェンダーギャップの解消**  
学校教育において、男女の役割の決めつけや思いこみをなくしていくための教材を作成しました。  
また、こども・若者の発達段階に応じて多様な理解を育む取組をしたり、**性的マイノリティ**のこども・若者へきめ細やかな対応ができるよう、先生向けの啓発資料を作成しました。

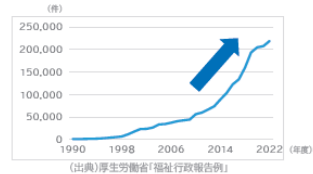
みなさんの意見の活用

2ページにつき1テーマを基本にしました！

「今の社会の様子」で**施策の「なぜ」(目的・背景)**を説明します！

こども家庭センターを新しくつくります

**今の社会の様子**  
全国の児童相談所で児童虐待に関する相談にのった件数は年々増加し、2022年度はおよそ21万件となり、これまで一番多い数となっています。



増加の理由はいろいろなことが考えられますが、たとえば地域の人の関わりが減ったことなど、子育て中の家庭が孤立してしまうことが1つの理由と考えています。

取り組んでいること

子育て中の家庭が孤立しないようにするには？  
子育て中の家庭への支援体制を強化するため、2022年に「児童福祉法」を改正しました。

「こども家庭センター」って？

市町村では、すべての妊婦、子育て中の家庭、こどもについて、さまざまな相談窓口を設け支援者が協力しあう皆さんの支援者がいることは大切なことですが、同じ市(出産前後の母親とこどもの健康に関する支援)と、児童福祉、保育や子育て支援、児童虐待対策などを担当するまで、支援がとぎれてしまうことがあります。



そこで、市町村の組織を見直し、すべての妊婦、子育て中について一体的に相談支援を行う「こども家庭センター」をつくることで、子育て中の家庭が孤立することのないよう、地域で支援していきます。



多くの施策の抽象的紹介を載せるのではなく、**数**を絞って**具体的な取組内容**をていねいに説明するようにしました！

ないよう  
内容（工夫・しかけ）

ぷらすメンバーからの意見

世代ごとの作成<sup>さくせい</sup>について

- 世代ごとに分けて作るの<sup>よ</sup>は良いアイデアだと思う。
- 簡単<sup>かんたん</sup>すぎても、小学校高学年や中学生からすると嫌<sup>いや</sup>だと思う。言葉<sup>ことば</sup>づか<sup>づか</sup>いも学年ごとに分けられるとよい。



形式<sup>けいしき</sup>について

- 小学生はカードを集めるのが好きなことが多いので、こども白書を小<sup>す</sup>さいカードにして毎月<sup>ちが</sup>違う内容にして配る。
- 「やさしい版こども白書」を開いたら、本の中が立ち上がって立体<sup>ていたい</sup>になるというしかけがあったら良いと思う。
- 内容を4コマ<sup>まんが</sup>漫画にしたら読んでもらえると思う。



みなさんの意見の活用

- 「**小学校1～2年生向け**」のページを作りました。
- 「小学校1～2年生向け」は、言葉づか<sup>ことばづか</sup>いも「～だよ」調にしてやさしくしました。

こども白書 小学1・2年生のみんなへ

園<sup>えん</sup>では、こども・わかもの<sup>わかもの</sup>のために たくさんの ことにとりくんでいるよ。  
「こども白書」は、その年<sup>とし</sup>に 園<sup>えん</sup>が どんなことにとりくんだのか、  
こども・わかもの<sup>わかもの</sup>の まわりの社会<sup>しゃかい</sup>のようすと いっしょに まとめたものだよ。  
ここでは、小学1・2年生<sup>しょうがく ねんせい</sup>の みんなに 知<sup>し</sup>ってほしいことを しょうかいするよ。



みんなが 人生<sup>じんせい</sup>を しあわせに すごすために とても たいせつなのは、おかあさんの おなかに あかちゃんが できてから 小学1年生<sup>しょうがく ねんせい</sup>になるまでの、だいたい 100か<sup>か</sup>月<sup>げつ</sup>。このときに 社会<sup>しゃかい</sup>の みんなで たいせつに したいことを まとめた 「はじめの100か<sup>か</sup>月<sup>げつ</sup>の 背<sup>せ</sup>ちビジョン」をつくったよ。

「はじめの100か<sup>か</sup>月<sup>げつ</sup>」とは？

- 面白いアイデアをありがとうございます！今回は実現<sup>じつげん</sup>できませんが、今後の参考<sup>さんこう</sup>にします。

内容 (工夫・しかけ)

ぷらすメンバーからの意見

目次について

簡単な目次がついていると良いのではないかな。一部分だけ読みたい人がいると思う。

資料の形式について

- 紙よりもデジタル版が良い。デジタル版であれば読みたいページにすぐ飛ぶことができる。デジタル版で目次があれば便利だと思う。
- 分割されたPDFファイルは見るのが面倒である。
- 調べたいところだけ見たい時には、分割されているほうが便利なのもあるかもしれない。



みなさんの意見の活用

- 目次を設けました！
- デジタル版をホームページに掲載しました。目次から読みたいページに飛べるリンクを作成し、見たいページを見てもらいやすくしました。

もくじ

- ◎はじめに
  - こども家庭庁について.....2
  - やさしい版こども白書について.....3
- ◎こども・若者に関する今の社会の様子や施策を知ろう
  - こどもまんなか社会を目指す「こども大綱」.....4
  - 次元の異なる少子化対策.....6
  - 日本のこども・若者の意識の現状.....8
  - さまざまな体験の機会づくり.....10
  - 安全に安心してインターネットをえる環境づくり.....12
  - こども・若者の声（こども・若者の声）.....14

## ②「やさしい版こども白書」の工夫、しかけ／「やさしい版こども白書」のサンプルを見た感想

### 内容（工夫・しかけ）

#### ぷらすメンバーからの意見

##### QRコードなどのしかけ

- **自分たちにできることを**教えてほしい。
- **啓発資料のQRコードを掲載**すれば、知りたい人はもっと知ることができる。

##### こどもたちの意見反映

- 「『こども白書』はこどもたちの意見を聴いて作成されているもので**す**と書いておいたほうが読む人から信頼されると思う。



#### みなさんの意見の活用

- 「やさしい版こども白書」を読んだときに、「やってみよう」や「もっと知りたい」に発展するように、**さまざまなサイトへのQRコード**を載せました。

- 「やさしい版こども白書」の**説明ページ**に書かせていただきました！



令和6年版こども白書(市販版)

「やさしい版こども白書」は、「こども白書」からこども・若者のみなさんにも知ってほしいことを中心に取り上げて、こどもにとって分かりやすくなるように、やさしい表現で書きました。そのために、「こども若者★いけんぷらす」のしくみを使って、こども・若者のみなさんから、いろいろなご意見をいただきました。

内容（見せ方）

ぷらすメンバーからの意見

図解について

- 図解するなど、文字以外の表現を駆使していくことが必要かと思う。
- 中学生の頃、授業で調べものをする時は、具体例や数値的なデータを調べて根拠を探していた。分かりやすい数値などを載せてくれたら嬉しい。

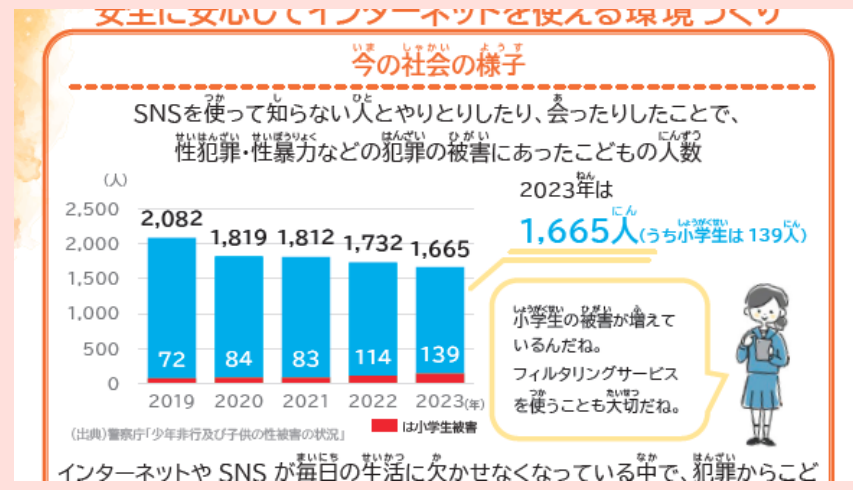


イラスト・写真について

- 載っている写真が内容に関係あるのかわからなかった。
- もう少し画像があった方がいいと思う。

みなさんの意見の活用

- 図解して見せる表現を使ったり、グラフなどで数値的データを多く見せるようにしました。



- 写真や図にはタイトルを付けるようにしました。
- 1ページあたりの施策数を減らして余裕をもたせ、イラストや画像を増やしました。

ないよう  
内容（見せ方）

ぷらすメンバーからの意見

会話形式

- 特に伝えたい内容をQ&A形式で載せると良いかもしれない。
- 会話形式に変更して、読者が質問しているような気持ちになれると読みやすいかもしれない。

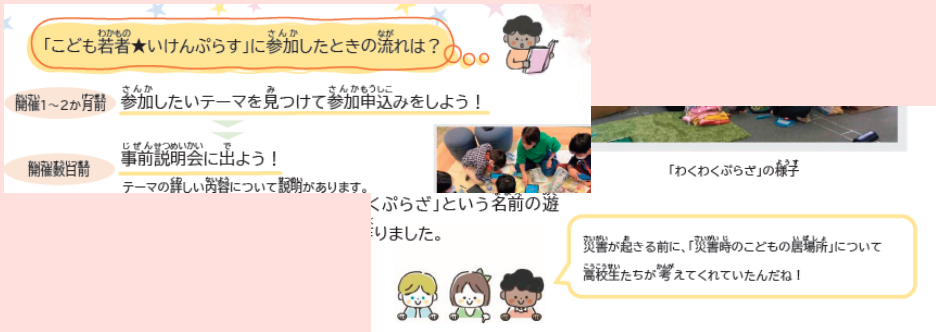


その他の工夫

- ページのレイアウトは統一し、最後に「この章のまとめ」を設けると読みやすい。
- 豆知識など、こどもたちが知りたいと思う情報が入っていたほうが良いと思う。

みなさんの意見の活用

- 説明したいテーマを、**子どもの質問や希望の表現**で載せるようにしました。
- 説明した内容に対して**子どもが感想や気づきを話す表現**を取り入れました。



- ページのレイアウトを統一しました。
- 「この章のまとめ」や豆知識はとっても良い考えですね！今回は内容を簡潔にしてページに余裕を持たせることを優先しましたが、今後の参考にしたいと思います！

ぷらすメンバーからの意見

みなさんの意見の活用

文章

- **ふりがながついていない**ところは読みづらい。
- 全体的に文章が堅くて**教科書みたい**だと思った。
- こういった**新聞のような文章**を読むのは苦手である。

- **すべてにふりがな**をつけました。
- 調べ学習でも使っていただけるように、教科書に近い文章にしていますが、**サンプル版よりもやさしい文章**になるように心がけました。

デザイン・レイアウト

- 「UDデジタル教科書体」のようなユニバーサルデザインのフォントを使うと良い。
- **色鮮やかすぎると読みにくい**と思う。
- **多くの色を使いすぎると読みづらくなる**と感じた。
- レイアウトに関しては、**社会科の教科書がすごく読みやすい**と思う。普段使っている教科書は文字の大きさが項目によって違ったり、インデックスがついていたり、アンダーラインがあったりする。

- 「**UDPゴシック**」にしました。
- **こども家庭庁のカラーであるオレンジを中心に、やさしい色合い**になるようにしました。
- **文字の大きさの分け、キーワードの太字、アンダーライン**など工夫しました。
- 「小学校1～2年生向け」のページでは、教科書などでも使われている「**分かち書き**」を取り入れました。





その他の活用方法

ぷらすメンバーからの意見

学校での活用方法

- **生徒会室の周りに置く**べきであると思う。児童会や生徒会のメンバーならば、より深く読んでもらえるかもしれない。
- 「こども白書」に何が載っているかを知っている人があまりいないと思う。  
**先生が内容について知っていたら、生徒も知るきっかけが生まれそう。**
- 「こども白書」を使って**学校でワークショップ**的なもの如果能できれば良い。

メディアの活用方法

- **解説動画チャンネル**で取りあげるといいかもしれない。
- **クイズ系YouTubeチャンネル**などのYouTuberとコラボすると良いかもしれない。
- 小学生でも見ているSNSなどに、**リールのように検索しなくとも勝手に流れてきたら**見るかもしれない。

みなさんの意見の活用

- 具体的にどうしたら学校で活用してもらえるか、とても参考になりました。今後の参考とさせていただきます！



- どのようなメディアを活用すると、子ども・若者の皆さんにとって届きやすくなるのかが分かりました。今後の参考とさせていただきます！

### ③ もっと詳しく知りたいこと・日ごろの関心ごと

白書の内容の中で、もっと詳しく知りたいと思ったり、興味を持ったこと（分かりやすく説明してほしいと思ったこと）

#### ぶらすメンバーからの意見

- 「【特集①】『**こども大綱**』について、どのような内容なのかが気になる。
- 「【注目事例⑤】**はじめの100か月の育ちビジョン**」は親世代向けだと感じ、対象世代が混在している印象がある。
- 「【注目事例⑦】**1人1台端末等を活用したこどもの相談支援**」に関心がある。こども家庭庁が出している「こどもの自殺対策緊急強化プラン」にも同じことが書いてあったが、端末を活用した相談支援の有効性が分からなかった。
- 「【注目事例⑧】**学校外からのアプローチによるいじめ防止対策**」に興味がある。
- 「【注目事例⑨】**ヤングケアラー支援**」について知りたいと思った。政府が考えた対策は難しいので学生が考えた対策も書いてあったほうが「みんなこういうことを考えているんだ」と思える。
- 「**こども若者★いけんぶらす**」も知名度が低いと思うので、分かりやすい説明が必要だと考える。

#### みなさんの意見の活用

- 挙げていただいたテーマを参考に、「やさしい版こども白書」に取り上げるテーマを考えました。

#### ◎こども・若者に関する今の社会の様子や施策を知ろう

こどもまんなか社会を目指す「こども大綱」	4
次元の異なる少子化対策	6
日本のこども・若者の意識の現状	8
さまざまな体験の機会づくり	10
安全に安心してインターネットを使える環境づくり	12
お金にゆとりがない・家計が苦しい家庭のこどもの支援（こどもの貧困対策）	14
こども家庭センターを新しくつくります	18
災害時のこどもの居場所づくり～能登半島地震～	20
みんなで大切に「はじめの100か月」	24
1人1台タブレット等を活用したこどもの相談支援	26
ヤングケアラー	28
共働き・共育てのための取り組みをすすめます	30
こどもまんなかアクション	
～こども・子育てにやさしい社会づくりのための意識改革～	32
こども・若者の意見の政策反映	34

さんか  
いけんひろばに参加いただき、ありがとうございました！  
みなさんの意見を元に注目事例を選び、**どうやったら「こども白書」**を手にとってもらえるか工夫しました。

れいわ ばん  
「令和6年版こども白書やさしい版」のいけん  
ひろばでは、サンプル版に対して具体的な意  
見をたくさんいただいたおかげで、「**どのような  
表現だと伝わるか、伝わらないか**」「**みなさん  
がどんなことを知りたいか**」ということがよく分か  
り、実際の「こども白書やさしい版」の作成にと  
ても良く役立ちました！

